

東レエンジニアリング西日本は、エンジニアリング、マニュファクチャリング、メンテナンスの3事業を柱とし、安全で高品質な製品を提供できる真の長期安定成長企業を目指します

## 3月16日 輸出管理委員会・製品安全品質保証委員会開催

社長を委員長とする2つの委員会を開催しました。

輸出管理委員会では、委員長指示事項の伝達、2021年度の安全保障貿易管理に関する実施状況や活動結果が報告されました。2021年度も、法令違反および法令に関わる重要な問題はありませんでしたが、米中貿易摩擦の影響で各種の規制が改定・強化されていますので、今まで以上に従業員の輸出管理への知識と意識の向上に取り組んでいきます。

製品安全・品質保証委員会では、委員長指示事項の伝達、2021年度の品質活動状況が報告されました。2021年度は、製品安全・品質保証に関する事案は発生しませんでした。毎年11月に行われる品質不正に関する一斉調査で、不正に繋がりがねない納期やコストに対するプレッシャーを感じているとの意見もあり、「品質第一」「品質不正を起こさない」ために、一人ひとりが正しいことを正しくやることを従業員全員に周知するとともに、プレッシャーを感じた時に相談できる風通しの良い職場作りに取り組んでいきます。

(担当部署: C S R・法務審査室 Tel:077-534-0956)



## 保全事業 豆知識6 『ファイバースコープ』

私たち保全事業部は日々トラブル対応に直面します。

時にはモータの過負荷異常であったり、用役量や排気能力の低下であったり、トラブル現象についてはすぐさま発見は可能です。しかし、本質の発生原因にたどり着くには、そこから「なぜ モータが過負荷になってしまったのだろう?」「なぜ 所定の用役量が出なくなってしまったのだろう?」とトラブル現象から「なぜなぜ」を繰り返し、本質の原因を突き止めることが日々重要となっています。

そんな時、役に立っているのが今回ご紹介するファイバースコープです。

きっと配管のどこかで詰まっている、詰まり気味だろうと想定の下、ファイバースコープを活用することで、直接見ることができない箇所をダイレクトかつ鮮明に点検できる武器になっています。

そこから「なぜ 詰まるのだろう?」とさらに原因追求を深化させ、本質原因究明と対策へ進階、生産活動を下支え、工程の安定化へと日々努めています。



【ファイバースコープ】

【事例：冷却水配管（15A）スケール詰まり】



<洗浄前>



<洗浄後>

## ちりつも作戦⑧

消防設備点検を担当する愛媛の「ファイヤーマン」サークルでは、自動火災報知機点検において、試験機を見直し作業時間の短縮を図りました。今まで作動温度が高い感知器の試験には AC110V 電源の試験機を使用していましたが、今回の見直しでバッテリー式の試験機に変更しました。

変更前は AC110V 電源タイプの方が高温になるので早く感知器を作動させることができるため、AC110V 電源タイプを使用していました。

しかし、試験時間が『感知器の作動から復旧までのトータルの時間』であることに着目し、高温になりすぎないバッテリー式に変更し、復旧までの時間を短くすることができました。

また、バッテリー式になったことで、電源につなぐ必要がなくなり作業性が向上しました。

改善前  
(AC110V タイプの試験機を使用)



感知器が温まりすぎるため、試験機を外しても、火災警報が発報し続け、作動温度未満に下がるまで時間がかかっていました。

改善後  
(バッテリータイプの試験機に変更)



感知器が温まりすぎないため、試験機を外してから作動温度未満に下がる時間が短く、早く次の感知器の点検に移れます。